



我が子を守る

大切な命を救え！

ガイドライン 2015 対応



知多中部広域事務組合消防本部

目 次

事故を未然に防ぐ	1
乳幼児突然死症候群	2
感染症	2
転落事故	2
溺水	3
やけど	4
けがによる出血	5
けいれん	5
誤飲・気道異物	6
心肺蘇生法	8
日頃の備え・いざという時に	10
	
	
	

事故を未然に防ぐ（予防）

事故は思いがけずやってくるものです。しかし、その事故を未然に防ぐことができれば・・・。

けが（外傷）、溺水及び窒息などの不慮の事故は、子どもの心停止の原因として重要です。チャイルドシートやシートベルトの着用、自転車に乗る際はヘルメットを着用、浴室の施錠、浴槽に残し湯はしない、子供の手の届くところに小さなものなどを置かないことなどが重要です。

子どもは、単に体が小さい大人のミニチュア版ではありません。

- ・乳幼児は何でも口に入れて確認し、成長していきます。
- ・好奇心が旺盛で、何にでも触れたり、引っ張ったりします。
- ・判断能力、運動・反射神経、筋力が未発達で急に止まることはできません。
- ・危険を察知して避けたり、逃げたりすることもできません。
- ・言葉は話せても、理解できていません。
- ・体に比べ、相対的に頭が大きいいため頭から落ちたり、物にぶつかったりします。

周りにいる大人が、子どもの目線になってみることで、危険に対する感知能力を磨き、注意して見守ることで多くの事故は防ぐことができるのではないのでしょうか。



乳幼児突然死症候群（SIDS）

乳幼児突然死症候群（SIDS）は、子どもの突然死の原因の一つとして知られています。家族の喫煙や子どものうつぶせ寝を避けることは乳幼児の突然死のリスクを下げるとされています。

【Point！】

受動喫煙させない（妊婦の喫煙を含む）、うつぶせ寝を避ける

感染症

感染症は、死亡の大きな原因です。感染症にかからないようにすることが大切です。

【Point！】

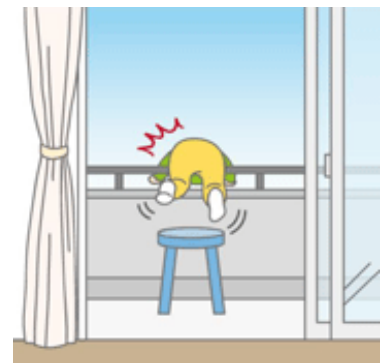
予防接種を受ける（いくつかの感染症はワクチン接種によって予防が可能です）

転落事故

ベランダや階段は子どもにとって興味を惹く場所です。と、同時に転落事故が起こる危険性があります。

【予防・対策】

- ・ベランダに踏み台となるようなものを置かない（古新聞等）。
- ・階段付近には柵を設置する。



【Point！】

子どもは頭が重く、運動神経が未発達

溺水

毎年、夏になるとニュースで水の事故が報道されます。水の事故は身近に起こる可能性がありますので注意が必要です。

【予防・対策】

<屋外>

プール、池、海などで子どもをひとりにしない。

<家庭>

洗濯機、浴槽、トイレ、ビニールプールなどの水に注意。



水深が 5cm あれば溺れる可能性があります。

【緊急時の対応】

- ・ただちに 119 番通報
- ・一次救命処置

【Point!】

「水は危険」との認識を忘れない!



<MEMO>

やけど

やけどは、家庭で起こりやすい事故のひとつですので注意が必要です。



【予防・対策】

- ・ ストーブ、炊飯器、ポットなど、やけどの原因となりうる物を子どもの手の届かないところへ移動させる。
- ・ ストーブなどの暖房器具には柵を設置する。

【緊急時の対応】

- ・ **流水で 5～10 分間患部を冷やす**（水疱を破る可能性があるため衣服はそのまま）
- ・ 冷却などの応急処置後に医療機関を受診
- ・ やけどの面積が大きい場合にはただちに 119 番通報

【参考】

やけどが体表面積の 10%以上の場合は「重症熱傷」と言われ、重症度・緊急度が高く、このような場合は、ただちに 119 番通報をしましょう。

(小児の場合、一方の腕全面をやけどした場合は熱傷面積が 10%と考えます。)

<MEMO>

けがによる出血

子どもはいつも元気いっぱい。元気いっぱい遊んでいて時々けがをしてしまうことがあります。子どもは体に比べ、相対的に頭が大きいいため転んでけがをしてしまうことは珍しいことではありません。慌てずに傷に対する応急手当を行いましょう。



【傷の洗浄】

- ・土などで傷口が汚れている場合、水道水（流水）できれいに洗い流しましょう。

（出血がほとんどない場合は、洗浄のみで構いません）

【直接圧迫止血法】

- ・出血が続いている場合、傷口を洗浄後、ガーゼや清潔なタオル等で傷口を覆い、圧迫します。



【止血できない場合】

- ・直接圧迫止血法で止血できない場合、医療機関（外科系）を受診しましょう。

けいれん

【熱性けいれん】

- ・熱の上がり始めや、38℃以上の熱に伴って起こるけいれんで生後6か月から6歳頃までに多くみられます。発生のメカニズムや原因は、はっきりわかっていませんが後遺症が残ったり、死亡したりすることはほとんどないといわれています。

【憤怒によるけいれん】

- ・「泣き寝入りひきつけ」や「憤怒けいれん」と言われるもので、熱性けいれんと同じく発生のメカニズムや原因は、はっきりわかっていません。泣いたあとに吸った空気をうまく吐き出せなくなり起こるもので3歳頃を過ぎれば自然になくなります。

【けいれんの対応は、よく観察すること】

- ・首の周りなどを締め付けないよう衣服を緩める
- ・平らなところへ寝かせる
- ・嘔吐がある場合、顔を横に向け吐物が詰まらないようにする
- ・けいれんの様子（左右差など）、けいれんの持続時間、体温などを確認する
- ・5分間は症状を観察し、それ以上続く場合には119番通報を！

【けいれんが起きた際にやってはいけないこと】

- ・身体を押さえつけること（けいれんを誘発したりけがを負わせる危険性があります）
- ・口の中にタオルや割り箸を入れること（窒息や嘔吐を誘発します）



誤飲・気道異物

子どもが異物をのどに詰まらせたり、飲み込んだりして起きる事故は毎年多く発生しています。誤飲や異物による窒息は命の危険もありますので注意が必要です。

【予防・対策】

- ・電池やたばこ、薬など口に入ってしまう大きさのものは手の届かない（1.5m以上の高さがある）ところへ置くようにしましょう。

【緊急時の対応】

- ・子どもが小さなものを飲み込んでしまい何らかの症状がある場合には、直ちに119番通報しましょう（特に症状がない場合は、かかりつけの小児科へ連れて行きましょう）。
- ・異物による窒息を起こしている場合、まずは異物除去法を何度か試み、除去できない場合には直ちに119番通報しましょう。

<MEMO>

【異物除去法（反応がある場合）】

- ・ 苦しそうで顔色が悪く、泣き声も出ないときは気道異物による窒息を疑います。
窒息と判断したら、まずは、異物除去法を行います。
- ・ 反応がある場合は、頭側を下げて背部叩打と胸部突き上げを行います。数回ずつ交互に行い、異物が取れるか反応がなくなるまで続けます。
- ・ 途中で反応がなくなってしまった場合、119番通報し、心肺蘇生を行います。

<背部叩打>

片方の手にあごをしっかりと持ち、その腕に胸と腹を乗せて頭側を下げるようにしてうつ伏せにし、もう一方の手のひらの基部で背部を力強く数回連続して叩きます。

<胸部突き上げ>

片方の腕に背中を乗せ、手のひら全体で後頭部をしっかりと持ち、頭側が下がるように仰向けにし、もう一方の手の指2本で両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を力強く数回連続して圧迫します。



「救急蘇生法の指針 2015（市民用）より転載」

【反応がない場合】

- ・ 直ちに心肺蘇生を開始します。

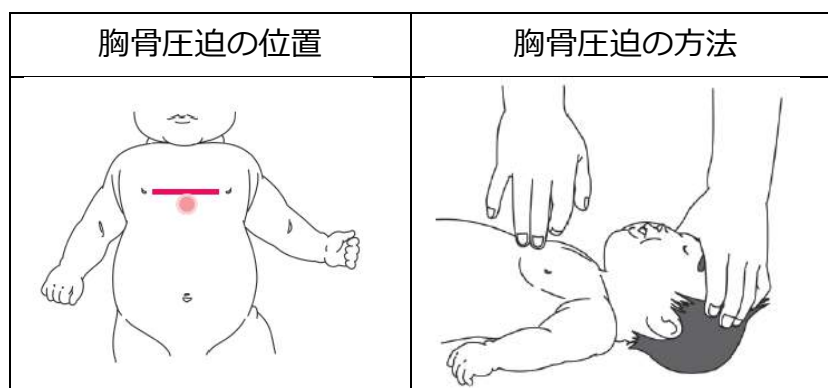
心肺蘇生法

【人工呼吸の重要性】

- ・ 乳幼児の場合、呼吸状態が悪くなったことが原因で心停止に至ることが多いため、できる限り人工呼吸も併せた心肺蘇生を行うことが望ましいと考えられています。

【胸骨圧迫の方法】

- ・ 乳児の場合は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を、指2本で圧迫します。



「救急蘇生法の指針 2015（市民用）より転載」

【人工呼吸の方法】

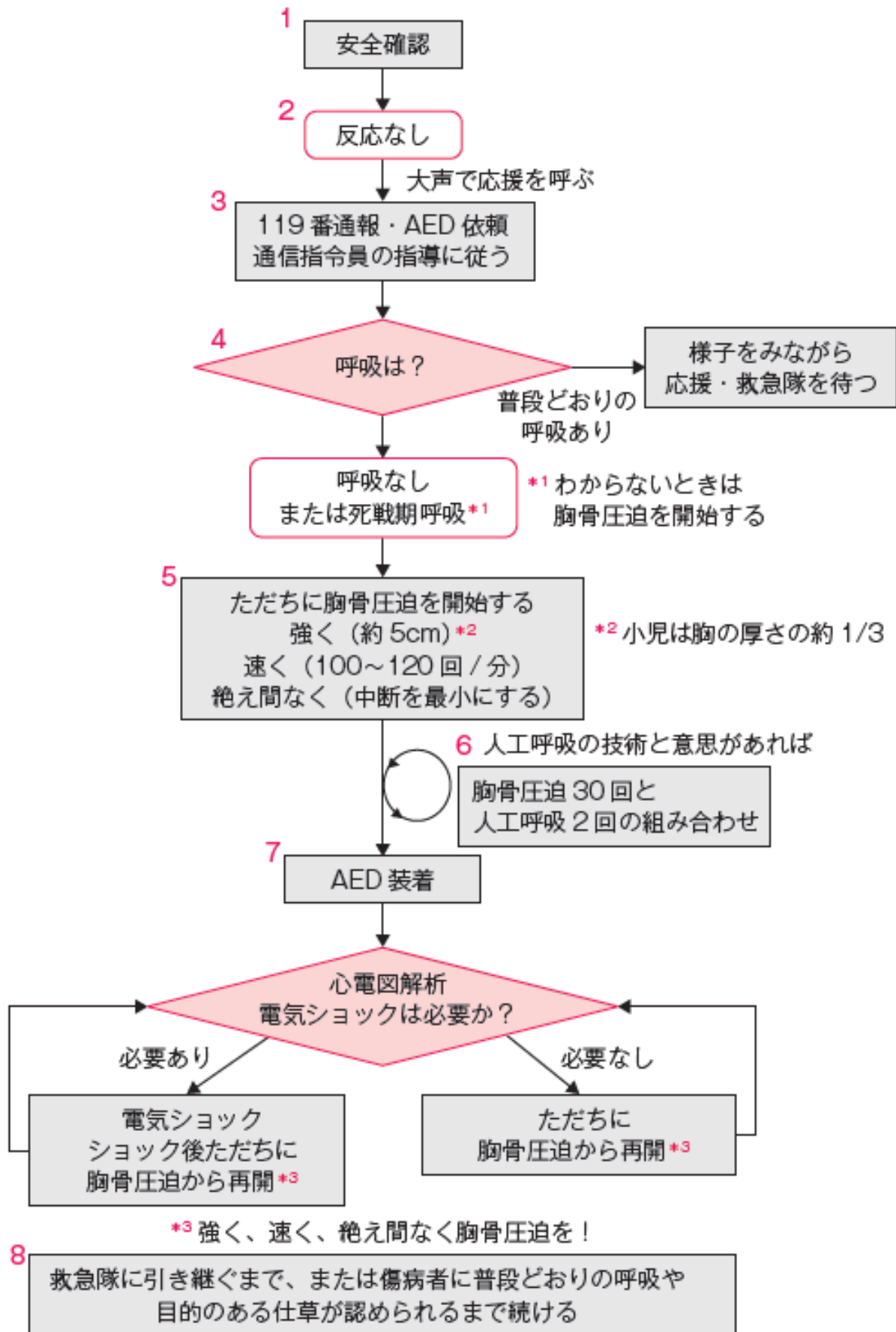
- ・ 頭を少し後屈させてあご先を持ち上げ気道確保を行います。極端に後屈させるとかえって気道を塞ぐことになるので注意しましょう。
- ・ 頭部後屈後、口を（乳児の場合は口と鼻）覆い密着させて、胸が軽く上がる程度まで息を吹き込みます。



「救急蘇生法の指針 2015（市民用）より転載」

※胸骨圧迫と人工呼吸は 30 : 2 で行います。

【心肺蘇生法のアルゴリズム】



「一般社団法人日本蘇生協議会監修：JRC 蘇生ガイドライン 2015,p.18,医学書院,2016 より転載」

日頃の備え・いざという時に

愛知県や他の団体が運営している事業、ウェブサイトをご紹介します。ぜひ一度ご覧ください。

【あいちはぐみんネット】

<http://www.pref.aichi.jp/kosodate/hagumin/index.html>



【こどもの救急】

<http://kodomo-qq.jp/>

The screenshot shows the 'Child Emergency' (こどもの救急) website. The header is red with the title 'こどもの救急' and '対象年齢 生後1か月～6歳'. Below the header is a navigation menu with 'ONLINE QQ' and 'ウェブサイト「こどもの救急」って?'. The main content is divided into three columns. The left column lists '気になる症状' (Symptoms of concern) with a red background: '発熱 (38℃以上)', 'けいれん・ふるえ', '吐き気', 'せき・ゼゼエする', '腹痛・便秘', '皮膚のブツブツ', '下痢', '泣き止まない', 'おしっこが出ない', '意識がおかしい', and '耳を痛がる'. The middle column is titled 'ONLINE QQ ウェブサイト「こどもの救急」って?' and contains two sections: '何に使うの?' (What to use it for?) and '対象年齢は?' (Target age group?). The '何に使うの?' section explains that it is for use during non-clinic hours and provides a judgment target. The '対象年齢は?' section states it is for children aged 1 month to 6 years. The right column is titled 'サイトの使い方' (How to use the site) and provides instructions on how to use the website, including clicking on symptoms and checking the results. At the bottom right, there is a red button that says 'いちばん左のメニューから'.

【小児救急電話相談事業】

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/0000050084.html>

8000（短縮番号を利用できない場合：052-962-9900）

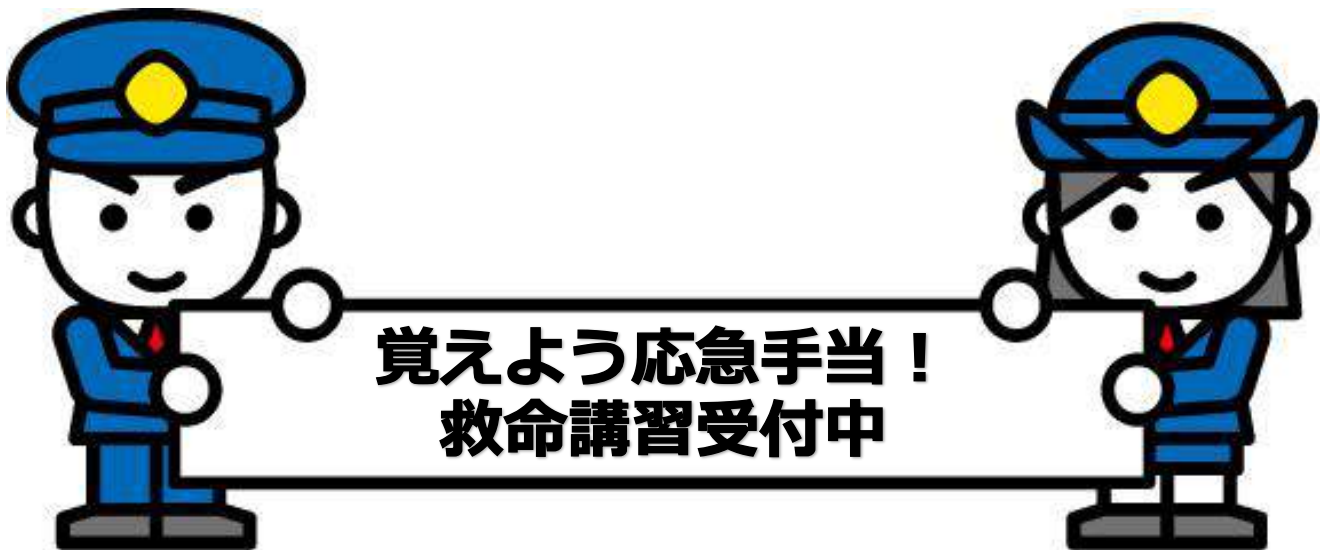
The screenshot shows the Aichi Prefectural Government website. At the top, there is a navigation bar with links for Home, Life/Safety/Environment, Tourism/Culture/Sports, Health/Welfare, Education/Childcare, and Industry. Below this is a breadcrumb trail: 現在地 > ホーム > 健康・福祉 > 健康・医療 > 救急医療・医療相談 > 小児救急電話相談事業. The main heading is "小児救急電話相談事業". A sub-heading "小児救急電話相談事業" is also present. The main text explains the service: "小児の保護者の安心感の向上を図るため、かかりつけの医師が診療していない夜間に、患者の症状に応じた適切な医療相談が受けられるよう、本県では平成17年4月から保護者向けの小児救急電話相談事業を実施しています。平成27年1月5日からは相談時間を拡充し、翌朝8時まで実施することとしました。". It lists four points: 1. 相談受付日: 毎日（平成24年4月1日から）; 2. 受付時間: 午後7時から翌朝8時までの13時間（平成27年1月5日から）; 3. 電話番号: # 8000 <短縮番号>・・・全国統一番号（ダイヤル回線、IP電話、ひかり電話等で短縮番号を利用できない場合052-962-9900）相談は無料ですが、通話料は相談される方の負担となります。; 4. 相談体制: 県の委託を受けた民間相談機関が配置する専門の相談員（看護師）が電話で対応します。なお、看護師で対応が困難な事例については、小児科医が対応します。 At the bottom, there is a link: 「こどもの救急」はこちらをご覧ください。 and another link: 愛知県小児科医会のホームページ.

【子どもの救急リスト】

http://www.pref.aichi.jp/kosodate/hagumin/emergency/kodomo_qq.pdf

The graphic features a title "子どもの救急リスト" (Children's Emergency List) with a subtitle "子どもが病気になってしまった時にぜひ参考にしてください！" (Please refer to this when your child gets sick!). It includes the logo of the Japanese Pediatric Society (日本小児科学会) and the Aichi Prefectural Emergency Medical Information Center (愛知県救急医療情報センター). The text states: "症状別チェックによる対処法を掲載。関連リンク集。" (Posting of handling methods by symptom type. Related link collection.) and provides the URL: "●子どもの救急：http://kodomo-qq.jp/". A QR code is also present, along with an illustration of a doctor and a child.

※印刷してご家庭に貼っておくと非常に便利です。



知多中部広域事務組合消防本部

半田消防署	(救急課)	0569-21-1492
阿久比支署	(救急担当)	0569-47-0119
武豊支署	(救急担当)	0569-73-0119
東浦支署	(救急担当)	0562-83-0119
成岩出張所	(救急担当)	0569-24-0119
北部出張所	(救急担当)	0569-28-5119
東浦西部出張所	(救急担当)	0562-82-1191

知多中部広域事務組合消防本部ウェブサイト

<http://www.cac-net.ne.jp/~chitachu/>

知多中部広域事務組合消防本部公式 Facebook

<https://www.facebook.com/chitachubu/>